

■群馬パース大学大学院の目的

現代医療の高度化、複雑化、多様化に幅広く対応するために、保健科学を看護学、理学療法学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学の立場から探究するとともに、保健科学に共通する高度な学術的基盤を修得し、各分野における次世代を担える研究能力と豊かな人間性を備え、その分野で活躍できる教育者、研究者、指導者を育成することを目的とします。

■博士前期課程における教育目標

高度な専門知識・能力を有する実践者の育成

高度な倫理観と社会に対する深い洞察力、保健医療をとりまく社会システム、医学・医療の最新の知識を有し、根拠に基づいた高度な保健医療の実践を提供し、その結果を分析、蓄積するとともに、実践を研究、教育へと還元できる人材を育成します。

保健医療分野においてリーダーシップを発揮する指導者の育成

保健医療システムを包括し、対象者のQOL向上のために資源を活用し、他職種との協働の中でリーダーシップを発揮し、ケアを推進できる人材を育成します。

実践分野において研究能力・教育能力を発揮する実践者・指導者の育成

臨床現場において生じる実践上の問題を抽出・分析し、その解決を図るために研究を推進・指導できる人材を育成します。また、臨床現場での新卒者、現任者を対象とする卒後教育、医療専門職養成機関での教育実践において、教育理論に基づいた教育方法を開発・構築し、実践できる人材を育成します。

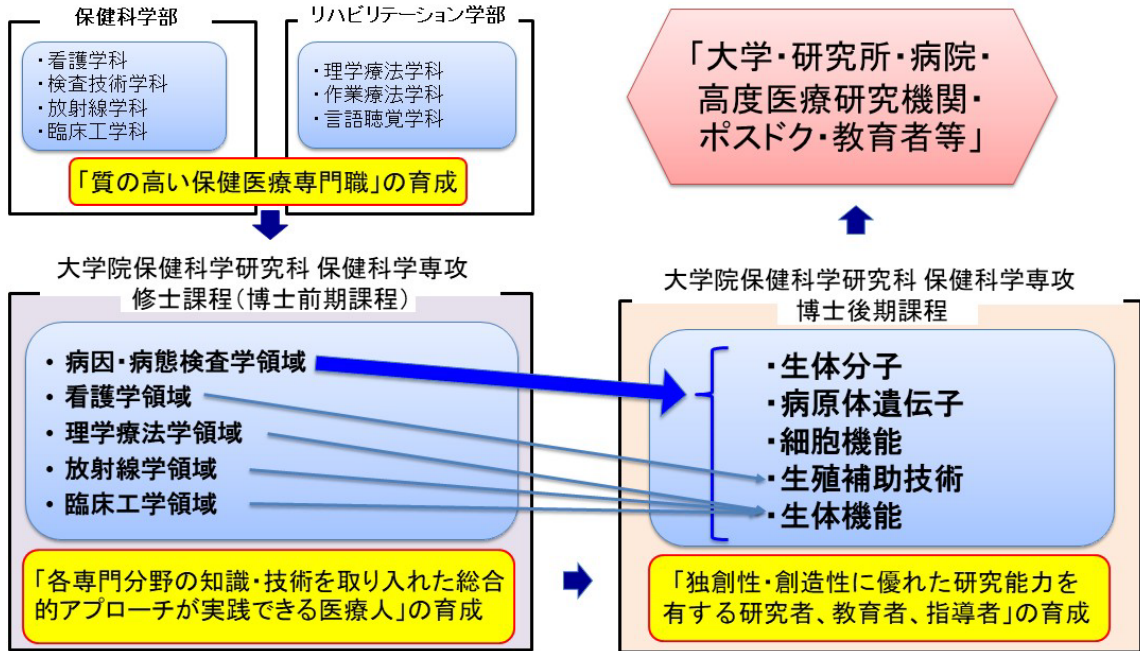
■博士後期課程における教育研究上の目的

大学院博士前期課程における教育・研究を通して養われた知識や技術による高度な専門能力を更に高め、医療科学領域において国際的な視野に立ち、自ら独創性の高い研究を遂行、指導できる教育・研究者、及び医療現場の高度な専門技術者を育成することを目的とします。

■学部と大学院保健科学研究科との関係

本学には保健科学部とリハビリテーション学部があり、保健科学部には看護学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科の4学科、リハビリテーション学部には理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科の3学科があります。大学院保健科学研究科博士前期課程においては看護学領域、理学療法学領域、放射線学領域、臨床工学領域の他に、臨床検査技師の資格がなくとも臨床検査学及び検査技術学を学問として追求できるよう病因・病態検査学を配置しています。これらの立場から保健科学を探究するとともに、人間の健康に関わる問題とその多面的要因に関わる探求において、各専門分野の知識・技術を取り入れた総合的アプローチが実践できる医療人を育成してきました。博士後期課程は既設の博士前期課程における5領域（看護学領域、理学療法学領域、病因・病態検査学領域、放射線学領域、臨床工学領域）の中で、基礎研究力の高い病因・病態検査学領域の研究内容や高度解析技術を発展させ、生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能などの「医療科学」に焦点をあてて、病気の予防や健康増進のための科学的エビデンスを構築しながら、独創性・創造性に優れ国際的に通用する研究能力を備えた医療人（研究者、教育者、指導者）を育成することを目的としています。博士前期課程と博士後期課程の連動性については下図に示したとおりであり、病因・病態検査学領域は、博士後期課程におけるすべての研究領域（生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能）に対応します。また、専任教員の研究専門性から、看護学領域は主に生殖補助技術に、理学療法学領域・放射線学領域・臨床工学領域は主に生体機能にそれぞれ対応します。

学部と大学院保健科学研究科との関係図



■群馬パース大学大学院の目的

現代医療の高度化、複雑化、多様化に幅広く対応するために、保健科学を看護学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学、リハビリテーション学、公衆衛生学の立場から探究するとともに、保健科学に共通する高度な学術的基盤を修得し、各分野における次世代を担える研究能力と豊かな人間性を備え、その分野で活躍できる教育者、研究者、指導者を育成することを目的とします。

■教育目標

博士前期課程

高度な専門知識・能力を有する実践者の育成

高度な倫理観と社会に対する深い洞察力、保健医療をとりまく社会システム、医学・医療の最新の知識を有し、根拠に基づいた高度な保健医療の実践を提供し、その結果を分析、蓄積するとともに、実践を研究、教育へと還元できる人材を育成します。

保健医療分野においてリーダーシップを発揮する指導者の育成

保健医療システムを包括し、対象者のQOL向上のために資源を活用し、他職種との協働の中でリーダーシップを発揮し、ケアを推進できる人材を育成します。

実践分野において研究能力・教育能力を発揮する実践者・指導者の育成

臨床現場において生じる実践上の問題を抽出・分析し、その解決を図るために研究を推進・指導できる人材を育成します。また、臨床現場での新卒者、現任者を対象とする卒後教育、医療専門職養成機関での教育実践において、教育理論に基づいた教育方法を開発・構築し、実践できる人材を育成します。

博士後期課程

大学院博士前期課程における教育・研究を通して養われた知識や技術による高度な専門能力を更に高め、医療科学領域において国際的な視野に立ち、自ら独創性の高い研究を遂行、指導できる教育・研究者、及び医療現場の高度な専門技術者を育成することを目的とします。

■学部と大学院保健科学研究科との関係

本学には看護学部、医療技術学部、リハビリテーション学部の3つの学部があり、看護学部には看護学科、医療技術学部には検査技術学科、放射線学科、臨床工学科の3学科、リハビリテーション学部には理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科の3学科があります。大学院保健科学研究科博士前期課程においては看護学領域、放射線学領域、臨床工学領域、リハビリテーション学領域、公衆衛生学領域の他に、臨床検査技師の資格がなくとも臨床検査学及び検査技術学を学問として追求できるよう病因・病態検査学領域を配置しています。これらの立場から保健科学を探究するとともに、人間の健康に関わる問題とその多面的要因に関わる探求において、各専門分野の知識・技術を取り入れた総合的アプローチが実践できる医療人を育成してきました。博士後期課程は既設の博士前期課程における6領域（看護学領域、リハビリテーション学領域、病因・病態検査学領域、放射線学領域、臨床工学領域、公衆衛生学領域）の中で、基礎研究力の高い病因・病態検査学領域の研究内容や高度解析技術を発展させ、生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能などの「医療科学」に焦点をあてて、病気の予防や健康増進のための科学的エビデンスを構築しながら、独創性・創造性に優れ国際的に通用する研究能力を備えた医療人（研究者、教育者、指導者）を育成することを目的としています。博士前期課程と博士後期課程の連動性については下図に示したとおりであり、病因・病態検査学領域は、博士後期課程におけるすべての研究領域（生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能）に対応します。また、専任教員の研究専門性から、看護学領域は主に生殖補助技術に、放射線学領域・臨

床工学領域・リハビリテーション学領域は主に生体機能に、公衆衛生学領域は主に病原体遺伝子と生体機能にそれぞれ対応します。

学部と大学院保健科学研究科との関係図

